

# 明倫小だより

第 特集 4 号  
20. 5. 28  
倉吉市余戸谷町3059  
☎22-6175

## いきいき わくわく 明倫の子ども

- あ 明るく元気な子 (健やかな体)
- お 思いやりのある子 (豊かな心)
- い いっぱい学ぶ子 (確かな学力)
- そら そらやるぞの意欲(たくましさ)

## 明倫のめざす学校像

- 一人一人が大切にされ、心の居場所のある学校
- 意欲的に学び、確かな学力を身につける学校
- うるおいと楽しさのある学校
- 地域から信頼される開かれた学校

## 教科書祭り

明倫小学校の記録の資料に次のような新聞記事がありました。

### 教科書さん、ありがとう

1200冊へ花束や歌 明倫小で恒例の祭り  
一年間ご苦労様でした。倉吉市余戸谷町、明倫小学校で一年間使用した教科書に感謝の意を込めて「教科書祭り」が盛大に催された。今年で二十四回を数える同小の伝統行事会場の体育館には、一年間児童達が活用した教科書約1200冊が真っ赤なりボンで結ばれ飾られた。まず全校児童で「教科書祭りの歌」を合唱。引き続き、一年間お世話になった教科書に感謝の作文を元気よく読み上げ、「一年間ありがとうございました。おかげでたくさんを知ることが出来ました」とお礼の言葉を述べました。

続いて各学年を代表して六人の児童が「教科書さんありがとう」と花束を贈呈。この後学年ごとに各教科書にあった出し物を披露し合い、それぞれの学年が趣向を凝らしたアイデアいっぱいの発表で教科書に感謝の意を表していた(昭和59年新聞記事より：一部略)

昭和33年3月24日の修了式に「古教科書に感謝する会」として実施され、今年で51回目となる教科書祭り、今号では明倫小学校の特色ある行事となった教科書祭りについて取り上げてみます。

**教科書あれこれ** まず、この祭りの主役ともいえる教科書についてです。

**教科書** は「小学校において、教科課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として、教授のように供せられる児童用図書」とであると定められています。

### 教科書無償給付制度

憲法第26条に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現させるものとして、将来を担う児童生徒に対して、国民全体の期待を込めて実施されています。

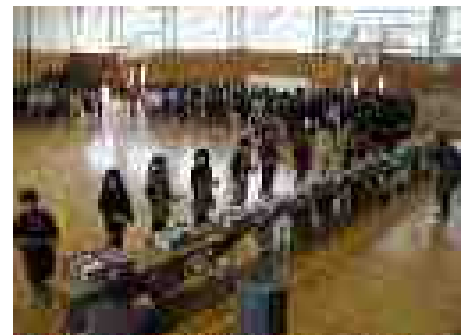
昭和38年度に小学校第1学年について実施され、以後、学年進行方式によって毎年拡大され(昭和39年度は小学校1~3年、昭和40年度は1~5年、昭和41年度は小学校1~6年、昭和42年から44年にかけて中学校1~3年の各学年へと広げ)昭和44年度に小・中学校の全学年に無償給与が完成しました。

### 教科書祭りの歌

作詞 藤井田加代子  
作曲 小川信子

いろいろなお世話になりました  
みんながお礼を言いました  
今日がうれしい教科書祭り  
ページめくれば思い出す  
あれこれ学んだ年月を

二よいことたくさん知りました  
みんながお礼を言いました  
今日はみんなの教科書祭り  
ページめくれば思い出す  
みんなと勉強したことを



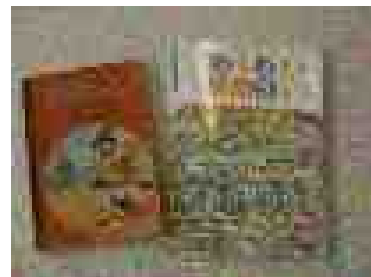
教科書祭り (平成18年度)



明治時代の国定教科書

## 諸外国における無償制度の状況

無償 イギリス、ドイツ、フランス（後期中等教育教科書は有償）  
フィンランド、アメリカ合衆国、カナダ、ニュージーランド  
有償 中国、シンガポール、ロシア連邦  
学校によって異なる オーストラリア（文部科学省資料より）



## 教科書の種類・教科書制度

○国定教科書 国（政府）が発行して、児童生徒に使用を義務づける。  
○検定教科書 民間（企業）が発行するが、国（政府）が検定を行う。  
日本の小学校ではかつては国定教科書が使われていましたが、昭和22年に制定された学校教育法により検定教科書が使われるようになり、今に至っています。

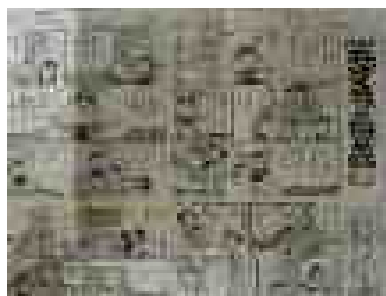
主な国の初等教育における教科書制度の違い

教科書制度	発行	おもな国々（2007年現在）
国定教科書	政府	イラン、韓国、タイ、マレーシア
検定教科書	民間	中国、ドイツ、日本、ノルウェー
検定なし	民間	アメリカ、イギリス、フランス、フィンランド、オーストラリア

（NHK「週刊子どもニュース」放映分より）

## 教科書祭りの歴史

今年で51回目となる教科書祭り、新聞などにも取り上げられ明倫小学校の伝統的な行事ともなっています。教科書が完全無償となるまで（昭和44年）はお金を出して教科書を買っていました。（右上の写真は現在使用している「わくわく算数」と昭和27年度版の「算数の本」ですが、「算数の本」は定価53円となっています。）兄弟のお下がりということもありました。そのため、今以上に大切に教科書を使っていたと思います。



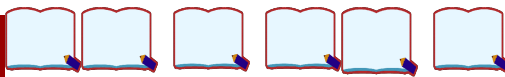
時代とともに教科書も使いやすく工夫されてきています。紙の質の向上、カラー化、大きさもより見やすい大きさになっています。しかし、経済的な豊かさと反対に教科書をはじめ「もの」を大切に作る心が薄れ、教科書祭りもお祭りのな色彩が強くなっていった傾向も見られました。

朝日小学生新聞より

平成17年度の教科書祭りでは、例年以上にたくさんの新聞社やテレビ局の取材がありました。全国版の小学生新聞2社では特集として教科書祭りが取り上げられました。（写真）この年は、経済的な成長から心の豊かさが大切だということが盛んに言われていました。また、環境保護活動家・ノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイさんから始まった「MOTTAINAI・もったいない運動」という言葉が日本はもちろん世界中に広がった時期でもありました。

学習を進めるのになくってはならない教科書、教科書の役割と活用の仕方、教科書をはじめいろいろなものに対する感謝の気持ちを養う教科書祭り。この原点を大切にしたい教科書祭りとしてほしいものです。

## 第51回教科書祭り



2月22日（金）、教科書祭りを開催しました。「古教科書に感謝する会」として実施されて以来毎年行っており、今年で51回目となりました。子どもたちは、お世話になった教科書に花を捧げて感謝の気持ちを表しました。

また、2年、4年、6年の子どもたちが教科書に関する発表をしました。2年生は教科書に載っている「世界のかくれんぼ」、4年生は明倫タイムで学習した「イングリッシュワールド」、6年生は「教科書がただになったわけ」を全員で順番に朗読風に発表をしました。

教科書祭りは、教科書をはじめものや人への感謝の気持ちを表すよい機会です。多くのマスコミにも取り上げられるこの祭り、明倫小学校の伝統的な行事の一つとしてこれからも大切にしていきたいものです。

（平成19年度「明倫小だより第17号、第18号」を一部修正したものです）



<平成19年度>